

経営者感覚を持った管理職

— 財務諸表を読み解く力 —

先ごろ、経団連から今夏の賞与について発表がありました。それは、平均9万4千1595円で、3年連続の増加とのことです。また、この春には新入社員も含めて、大幅な給与アップも話題となりました。従業員にとっては、うれしい話です。

しかし、**すべての企業が賃上げできるわけではありません**。特に、中小企業にとっては、人件費（固定費）の増加は経営危機にもなりかねません。

ともすると、賃上げできない企業の従業員からは「よそがやっているのに、うちは・・・」「売上は上がっているのに、なんで賃上げしてくれないの・・・」などと、モチベーションダウンになりかねないでしょう。経営者としては、頭が痛いことです。

当然のことですが「売り上げ＝給与の原資」ではありません。利益こそが、原資です。その点を従業員が理解できなければ、このような不満は解消できません。

20数年前、「オープンブックマネジメント」という考え方がジョン・ケースによって提唱されました。この意味は「財務諸表（ブック）を従業員に公開し、データの読み方を教育して、全員参画型の経営を行うマネジメント手法」です。

そのメリットとして、以下の3点があります。

1. **経営を自分事として捉えるようになる**
2. **社員の財務リテラシー（能力）が向上する**
3. **積極性、生産性が向上する。（自分がどうすれば、利益が上がるのかを考えて仕事に取り組める）**

しかし、財務諸表は単に数字だけを見ても、その奥にある経営姿勢や課題を読み解くことは難しいものです。そのため、全従業員が上記のメリットを得られるわけではありません。逆に「こんなにお金があるのに、賃上げしないのはおかしい」との誤解を生じかねません。まさに諸刃の剣です。

そこで、弊社の「**経営者意識醸成研修**」 - **財務諸表を読み解く力の強化** - をご提案いたします。この研修の目的は「**部門の経営者である管理職に“経営者としての意識”**」を持っていただくことです。それによって、自部門の利益を創出するマネジメント力を強化します。

ともすると、コスト意識は上層部だけにとどまってしまうがちですが、管理職が“本気”になることができる研修です。

研修カリキュラムは、企業の個別事情に合わせたオリジナルなものをご提案いたします。場合によっては「部門の決算書」を作成していただきます。それによって、営業部門以外にも「利益を創出できる仕組み」を作り上げることも可能です。

興味・関心のある方は、まず下記から是非ご相談下さい。ご相談・仮提案は無料でさせていただきます。

> お問い合わせはこちら

